

令和6年度

(令和5年10月～令和6年9月)

環境経営レポート

令和6年12月20日 作成

山崎機工株式会社

目 次

項 目

目次	2
1. 会社・事業の概要	3～4
2. 環境経営方針	5
3. エコアクション 21 実施体制	6
4. 環境保全活動の実践	7
① 環境への負荷低減目標と実績	7～10
二酸化炭素排出量に関する項目		
総廃棄物排出量の削減		
総排水量の削減		
② 営業拠点別主要指標		11
③ 環境保全活動の経過推移（全社過去5年のグラフ化）		12
5. 環境への負荷低減のための具体的取組と評価		
・次年度の取組内容	13～14
6. 緊急事態への準備、及び対応	14
7. 環境関連法規への違反・訴訟等の有無	14
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	14

1. 会社・事業の概要

- 事業所名 山崎機工株式会社
代表取締役社長 山崎 均
- 本社所在地 富山県富山市針原中町 503 番地
- 関連事業所 入善営業所 富山県下新川郡入善町道古 59
高岡営業所 富山県高岡市宝来町 824
金沢営業所 石川県白山市小上町 112
- 対象範囲 全組織・全活動を認証・登録の対象範囲とする
- 創業・設立 昭和 23 年 11 月 創業 / 昭和 34 年 12 月 設立
- 資本金 45,000 千円
- 決算期 9 月
- 事業内容 無人化・省力化システムをはじめとする産業機械・工作機械
及び周辺機器類・その他物流システム用品の専門商社
- 事業所規模

項目		R2年9月期	R3年9月期	R4年9月期	R5年9月期	R6年9月期
売上高 (百万円)	本社	1,968	2,323	2,949	2,955	2,282
	入善	480	512	598	502	705
	高岡	836	661	942	732	776
	金沢	319	367	303	307	345
従業員 (人)	本社	29	27	27	26	28
	入善	6	7	7	5	5
	高岡	7	6	5	6	6
	金沢	4	4	5	4	4
床面積 (㎡)	本社	1,998	1,998	1,998	1,998	1,998
	入善	364	364	364	364	364
	高岡	168	168	168	168	168
	金沢	161	161	161	161	161

■環境保全関係の最高責任者・環境管理責任者・推進委員及び連絡先

最高責任者	山 崎 均	代表取締役社長
環境管理責任者兼総務推進委員長	栃 谷 茂 実	総務部長
営業本部長	山 崎 和 哉	営業部取締役
営業部推進委員長	板木平 雄二	本社営業部取締役営業部長
業務課推進委員長	舟 崎 俊 一	業務課課長
営業部推進副委員長	奥 井 裕 二	本社営業部マネージャー
営業部推進副委員長	永 森 聡 志	本社営業部グループリーダー
営業部推進副委員長	加 藤 弘 康	本社営業部グループリーダー
営業部推進委員長	藤 木 雄 介	入善営業所所長
営業部推進委員長	湊 裕 也	高岡営業所所長
営業部推進委員長	赤 井 義 紀	金沢営業所所長

T E L 076-451-8001 F A X 076-451-8855

E-mail : soumu@yamazaki-kiko.com

URL : <https://yamazaki-kiko.com>

2. 環境経営方針

〔環境理念〕

山崎機工株式会社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題のひとつであることを認識し、企業活動のあらゆる面で環境の保全に配慮して行動する。

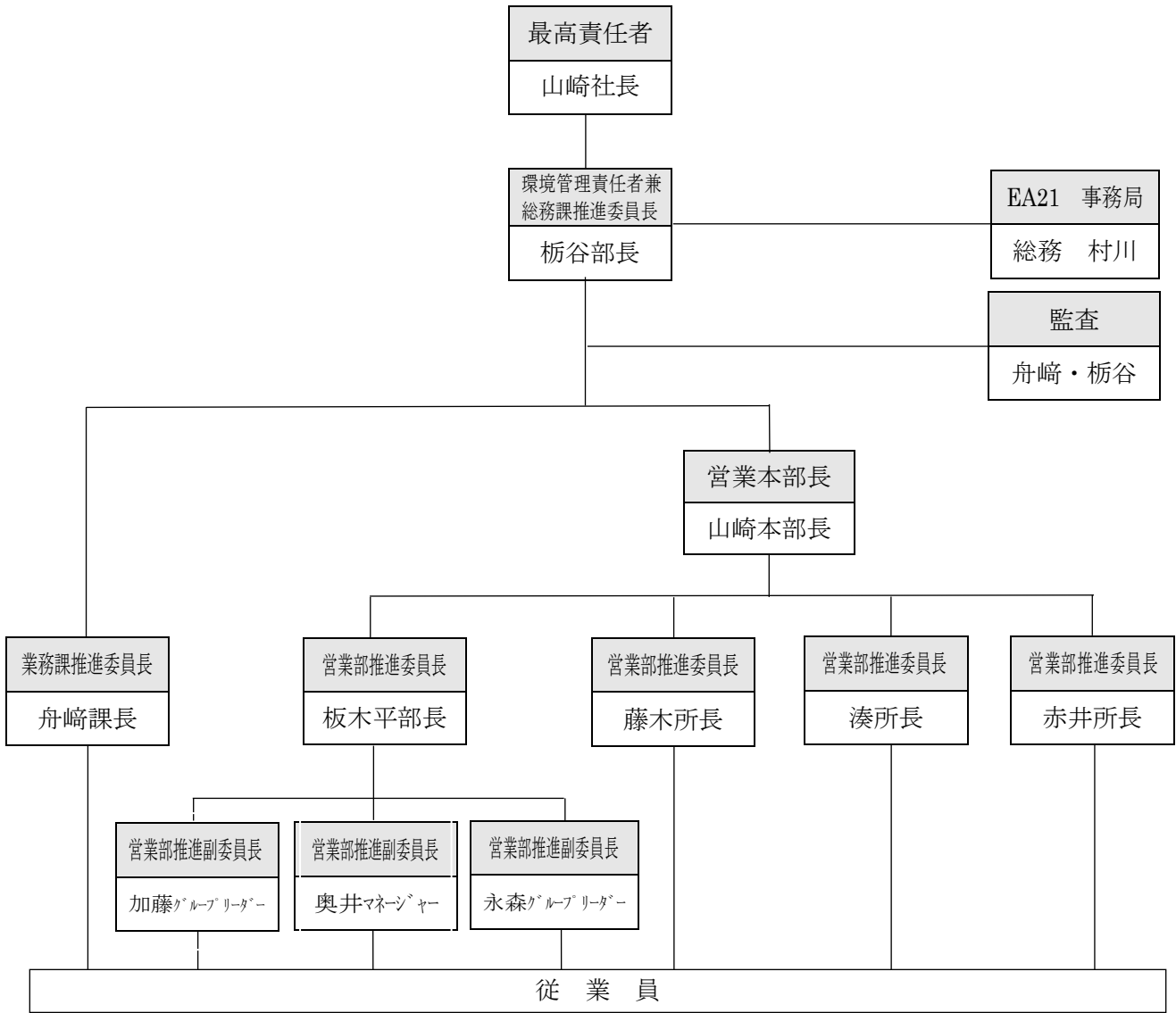
〔環境方針〕

1. 企業活動が環境に与える影響を的確に捉え、可能な範囲で環境目的・目標を定めて、環境保全活動の質の継続的な向上を図る。
2. 環境関連の法律、規制などを遵守し、さらに社内ルールを定めて一層の環境保全に取り組む。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物、排水量の削減に企業活動の全ての領域で取り組む。
4. 環境負荷やコスト面でのロスが発生させてしまう返品について、発生理由を社員ひとり一人が認識・対策して、極小化に取り組む。
5. 環境に関する社会活動により、地域社会に貢献する。
6. 環境教育や社内広報活動等を実施し、従業員の環境基本方針の理解と、環境に関する意識向上を図る。
7. 環境管理の実施状況については環境活動レポートを作成し公開する。

平成 20 年 6 月 28 日 作成
令和 元年 5 月 31 日 改訂
令和 5 年 4 月 3 日 改訂
令和 6 年 4 月 5 日 改訂

山崎機工株式会社
代表取締役社長 山崎 均

3. エコアクション21 実施体制



- 最高責任者 環境マネジメントを行っていく上で、全体的な取組状況について把握・評価し、必要な指示をする。
- 環境管理責任者 エコアクション21の計画や目標を構築・運用し、取り組み状況を最高責任者に報告する。環境活動レポートを取りまとめる。
- 営業本部長 環境管理責任者をサポートし、営業部の4拠点を取りまとめる。
- 推進委員長 営業本部長をサポートし、各部署において環境活動計画を実行する。
- 推進副委員長 推進委員長をサポートし、各推進担当者への指示、アドバイスを行う。
- 従業員 推進副委員長及び運営委員責任者より指示・アドバイスを受け、各項目毎の環境活動計画を推進実行する。

※ EA21 運営委員会は、状況を見ながら都度召集する。
個別推進項目には、担当者以外に運営委員のスタッフが必ず責任者として入るものとする。

4. 環境保全活動の実践

①環境への負荷低減目標と実績

当期は令和3年9月期の実績数値を基準年としました。

当期間中の購入電力排出係数については、令和3年北陸電力株式会社調整後排出係数(0.484kg-CO₂/kwh)を適用し、目標達成の判定基準は下記表によるところとしました。

尚、化学物質等の使用はありません。

目標達成の判定基準	◎	達成率 120%以上
	○	達成率 100～120%未満
	△	達成率 80～100%未満
	×	達成率 80%未満

二酸化炭素排出量に関する項目

項目	所課	【基準年】 R3.9期 実績	R6.9期 目標 (基準年比 削減率)	R6.9期 実績 (基準年比 削減率)	目標 達成 の判定	中期目標 (基準年比削減率)			
						【基準年】 R5.9期 実績	R7.9	R8.9	R9.9
電気 使用量	本社	36,915kwh	33,500kwh (△9.3%)	30,871kwh (△16.4%)	○ 107.8%	29,216kwh	30,400kwh (+4.1%)	28,800kwh (△1.4%)	28,500kwh (△2.5%)
	入善	3,605kwh	4,650kwh (+29.0%)	4,914kwh (+36.3%)	△ 94.3%	4,830kwh	4,650kwh (△3.7%)	4,600kwh (△4.8%)	4,550kwh (△5.8%)
	高岡	4,323kwh	4,300kwh (△0.5%)	4,183kwh (△3.2%)	○ 102.7%	4,519kwh	4,290kwh (△5.1%)	4,260kwh (△5.7%)	4,220kwh (△6.6%)
	金沢	2,564kwh	2,930kwh (+14.3%)	3,507kwh (+36.8%)	△ 80.3%	3,433kwh	3,390kwh (△1.3%)	3,200kwh (△6.8%)	3,000kwh (△12.6%)
	全社	47,407kwh	45,380kwh (△4.3%)	43,475kwh (△8.3%)	○ 104.2%	41,998kwh	42,730kwh (+1.7%)	40,860kwh (△2.7%)	40,270kwh (△4.1%)
灯油 使用量	本社	364ℓ	150ℓ (△58.8%)	0ℓ (△100.0%)	◎ 200.0%	157ℓ	150ℓ (△4.5%)	145ℓ (△7.6%)	140ℓ (△10.8%)
	入善	568ℓ	200ℓ (△64.8%)	150ℓ (△73.6%)	◎ 125.0%	205ℓ	150ℓ (△26.8%)	145ℓ (△29.3%)	140ℓ (△31.7%)
	高岡	600ℓ	150ℓ (△75.0%)	150ℓ (△75.0%)	○ 100.0%	206ℓ	150ℓ (△27.2%)	145ℓ (△29.6%)	140ℓ (△32.0%)
	金沢	348ℓ	335ℓ (△3.7%)	160ℓ (△54.0%)	◎ 152.2%	340ℓ	155ℓ (△54.4%)	150ℓ (△55.9%)	145ℓ (△57.4%)
	全社	1,880ℓ	835ℓ (△55.6%)	460ℓ (△75.5%)	◎ 144.9%	908ℓ	605ℓ (△33.4%)	585ℓ (△35.6%)	565ℓ (△37.8%)

項目	所課	【基準年】 R3.9期 実績	R6.9期 目標 (基準年比 削減率)	R6.9期 実績 (基準年比 削減率)	目標 達成 の判定	中期目標 (基準年比削減率)			
						【基準年】 R5.9期 実績	R7.9	R8.9	R9.9
L P G 使用量	本社	15.32kg	14.70kg (△4.1%)	10.97kg (△28.4%)	◎ 125.4%	12.60kg	12.21kg (△3.1%)	11.00kg (△12.7%)	10.80kg (△14.3%)
	入善	0.27kg	0.27kg (△0.3%)	0.25kg (△8.0%)	○ 107.7%	0.25kg	0.25kg (△0.6%)	0.24kg (△4.0%)	0.23kg (△8.0%)
	高岡	4.16kg	2.90kg (△30.3%)	1.86kg (△55.2%)	◎ 135.7%	2.48kg	2.90kg (+16.9%)	2.00kg (△19.4%)	1.80kg (△27.4%)
	金沢	0.17kg	0.23kg (+33.9%)	0.02kg (△87.8%)	◎ 190.9%	0.25kg	0.21kg (△17.2%)	0.18kg (△28.0%)	0.16kg (△36.0%)
	全社	19.92kg	18.09kg (△9.2%)	13.10kg (△34.2%)	◎ 127.6%	15.58kg	15.57kg (△0.1%)	13.42kg (△13.9%)	12.99kg (△16.6%)
ガソリン 使用量	本社	18,530ℓ	15,800ℓ (△14.7%)	16,303ℓ (△12.0%)	△ 96.8%	16,144ℓ	15,800ℓ (△2.1%)	15,600ℓ (△3.4%)	15,400ℓ (△4.6%)
	入善	5,539ℓ	5,130ℓ (△7.4%)	4,665ℓ (△15.8%)	○ 109.1%	6,015ℓ	4,910ℓ (△18.4%)	4,700ℓ (△21.9%)	4,600ℓ (△23.5%)
	高岡	7,882ℓ	5,700ℓ (△27.7%)	6,017ℓ (△23.7%)	△ 94.4%	6,040ℓ	5,700ℓ (△5.6%)	5,600ℓ (△7.3%)	5,500ℓ (△8.9%)
	金沢	3,417ℓ	3,430ℓ (+0.4%)	3,098ℓ (△9.3%)	○ 109.7%	3,387ℓ	3,010ℓ (△11.1%)	2,960ℓ (△12.6%)	2,900ℓ (△14.4%)
	全社	35,368ℓ	30,060ℓ (△15.0%)	30,083ℓ (△14.9%)	△ 99.9%	31,585ℓ	29,420ℓ (△6.9%)	28,860ℓ (△8.6%)	28,400ℓ (△10.1%)

項目	所課	【基準年】 R3.9期 実績	R6.9期 目標 (基準年比 削減率)	R6.9期 実績 (基準年比 削減率)	目標 達成 の判定
二酸化 炭素 排出量	本社	61,809 kg-CO2	53,791kg-CO2 (△13.0%)	53,262kg-CO2 (△13.8%)	○ 101.0%
	入善	16,010 kg-CO2	14,721kg-CO2 (△8.1%)	13,650kg-CO2 (△14.7%)	○ 107.3%
	高岡	21,885 kg-CO2	15,753kg-CO2 (△28.0%)	16,427kg-CO2 (△24.9%)	△ 95.7%
	金沢	10,036 kg-CO2	10,255kg-CO2 (+2.2%)	9,334kg-CO2 (△7.0%)	○ 109.0%
	全社	109,740 kg-CO2	94,519kg-CO2 (△13.9%)	92,673kg-CO2 (△15.6%)	○ 102.0%

総廃棄物排出量の削減

項目	所課	【基準年】 R3.9期 実績	R6.9期 目標 (基準年比 削減率)	R6.9期 実績 (基準年比 削減率)	目標 達成 の判定	中期目標 (基準年比削減率)			
						【基準年】 R5.9期 実績	R7.9	R8.9	R9.9
紙類	本社	3,130.0kg	3,400.0kg (+8.6%)	3,990.0kg (+27.5%)	△ 82.6%	3,770.0kg	3,950.0kg (+4.8%)	3,700.0kg (△1.9%)	3,600.0kg (△4.5%)
	入善	750.0kg	550.0kg (△26.7%)	520.0kg (△30.7%)	○ 105.5%	555.0kg	530.0kg (△4.5%)	520.0kg (△6.3%)	510.0kg (△8.1%)
	高岡	890.0kg	690.0kg (△22.5%)	740.0kg (△16.9%)	△ 92.8%	750.0kg	690.0kg (△8.0%)	680.0kg (△9.3%)	670.0kg (△10.7%)
	金沢	543.7kg	620.0kg (+14.0%)	423.0kg (△22.2%)	◎ 131.8%	644.9kg	433.0kg (△32.9%)	420.0kg (△34.9%)	415.0kg (△35.6%)
	全社	5,313.7kg	5,260.0kg (△1.0%)	5,673.0kg (+6.8%)	△ 92.1%	5,719.9kg	5,603.0kg (△2.0%)	5,320.0kg (△7.0%)	5,195.0kg (△9.2%)
事務系 一般 廃棄物	本社	407.4kg	320.0kg (△21.5%)	349.0kg (△14.3%)	△ 90.9%	336.8kg	330.0kg (△2.0%)	320.0kg (△5.0%)	310.0kg (△8.0%)
	入善	19.2kg	14.0kg (△27.1%)	13.0kg (△32.3%)	○ 107.1%	13.4kg	13.0kg (△3.0%)	12.5kg (△6.7%)	12.0kg (△10.4%)
	高岡	58.5kg	40.0kg (△31.6%)	36.5kg (△37.6%)	○ 108.8%	41.0kg	38.0kg (△7.3%)	36.5kg (△11.0%)	35.5kg (△13.4%)
	金沢	22.5kg	21.0kg (△6.7%)	15.5kg (△31.1%)	◎ 126.1%	21.6kg	15.6kg (△27.8%)	15.0kg (△30.6%)	14.5kg (△32.9%)
	全社	507.6kg	395.0kg (△22.2%)	414.0kg (△18.4%)	△ 95.2%	412.8kg	396.6kg (△3.9%)	384.0kg (△7.0%)	372.0kg (△9.9%)
産業 廃棄物	本社	159.6kg	153.0kg (△4.1%)	156.7kg (△1.8%)	△ 97.6%	162.9kg	155.0kg (△4.8%)	150.0kg (△7.9%)	145.0kg (△11.0%)
	入善	13.5kg	9.0kg (△33.3%)	12.0kg (△11.1%)	× 66.7%	11.0kg	8.0kg (△27.3%)	8.0kg (△27.3%)	7.5kg (△31.8%)
	高岡	30.1kg	30.0kg (△0.3%)	34.5kg (+14.6%)	△ 85.0%	104.6kg	28.0kg (△73.2%)	27.5kg (△73.7%)	27.0kg (△74.2%)
	金沢	25.4kg	12.9kg (△49.2%)	12.7kg (△50.2%)	○ 101.9%	12.9kg	12.3kg (△4.3%)	12.0kg (△6.6%)	11.5kg (△10.5%)
	全社	228.6kg	204.9kg (△10.4%)	215.9kg (△5.6%)	△ 94.7%	291.4kg	203.3kg (△30.2%)	197.5kg (△32.2%)	191.0kg (△34.4%)

項目	所課	【基準年】 R3.9期 実績	R6.9期 目標 (基準年比 削減率)	R6.9期 実績 (基準年比 削減率)	目標 達成 の判定
廃棄物 総排出 量	本社	3,697.0kg	3,873.0kg (+4.8%)	4,495.7kg (+21.6%)	△ 83.9%
	入善	782.7kg	573.0kg (△26.8%)	545.0kg (△30.4%)	○ 104.9%
	高岡	978.6kg	760.0kg (△22.3%)	811.0kg (△17.1%)	△ 93.3%
	金沢	591.6kg	653.9kg (+10.5%)	451.2kg (△23.7%)	◎ 131.0%
	全社	6,049.9kg	5,859.9kg (△3.1%)	6,302.9kg (+4.2%)	△ 92.4%

総排水量の削減

項目	所課	【基準年】 R3.9期 実績	R6.9期 目標 (基準年比 削減率)	R6.9期 実績 (基準年比 削減率)	目標 達成 の判定	中期目標 (基準年比削減率)			
						【基準年】 R5.9期 実績	R7.9	R8.9	R9.9
生活用水	本社	112.0m ³	101.0m ³ (△9.8%)	110.0m ³ (△1.8%)	△ 91.1%	112.0m ³	110.0m ³ (△1.8%)	108.0m ³ (△3.6%)	106.0m ³ (△5.4%)
	入善	81.3m ³	34.6m ³ (△57.4%)	24.2m ³ (△70.2%)	◎ 130.1%	37.1m ³	27.4m ³ (△26.1%)	26.0m ³ (△29.9%)	24.0m ³ (△35.3%)
	高岡	86.7m ³	9.6m ³ (△88.9%)	9.6m ³ (△88.9%)	○ 100.0%	9.0m ³	9.6m ³ (+6.7%)	8.9m ³ (△1.1%)	8.7m ³ (△3.3%)
	金沢	19.2m ³	18.0m ³ (△6.3%)	15.6m ³ (△18.8%)	○ 113.3%	18.7m ³	15.4m ³ (△17.6%)	15.2m ³ (△18.7%)	15.0m ³ (△19.8%)
	全社	299.2m ³	163.2m ³ (△45.5%)	159.4m ³ (△46.7%)	○ 102.3%	176.8m ³	162.4m ³ (△8.1%)	158.1m ³ (△10.6%)	153.7m ³ (△13.1%)
融雪装置	本社	6,505.0m ³	設定せず	2,208.0m ³ (△66.1%)	—	2,834.0m ³	設定せず	設定せず	設定せず
	入善	598.8m ³	設定せず	235.1m ³ (△60.7%)	—	849.8m ³	設定せず	設定せず	設定せず
	高岡	740.0m ³	設定せず	147.3m ³ (△80.1%)	—	526.4m ³	設定せず	設定せず	設定せず
	金沢	なし	なし	なし	—	なし	なし	なし	なし
	全社	7,843.8m ³	設定せず	2,590.4m ³ (△67.0%)	—	4,210.2m ³	設定せず	設定せず	設定せず

金沢営業所に融雪設備なし

項目	所課	【基準年】 R3.9期 実績	R6.9期 目標 (基準年比 削減率)	R6.9期 実績 (基準年比 削減率)	目標 達成 の判定
総排水量	本社	6,617.0m ³	—	2,318.0m ³ (△65.0%)	—
	入善	680.1m ³	—	259.3m ³ (△61.9%)	—
	高岡	826.7m ³	—	156.9m ³ (△81.0%)	—
	金沢	19.2m ³	—	15.6m ³ (△18.8%)	—
	全社	8,143.0m ³	—	2,749.8m ³ (△66.2%)	—

これ以外の取組項目として、電話使用料、紙の使用量、受発注時のミスによる返品削減に努め、すべての項目で前年度実績から削減・改善し、一定の効果をあげることができました。また、事務所や机回り、倉庫の整理整頓、営業車の点検・整備の実践、リサイクルとリユースの継続的な推進等、数値には表れないものの社内環境の改善、循環型社会への参加と協力という側面では、当社の企業活動のすべての領域で取り組めたと認識しております。毎週月曜日の全体朝礼での取組項目の活動と数値実績の周知を継続し、従業員の環境に関する意識の向上に努めました。

又、当社では各月度毎に重点商品販売企画として、省人・省力化商材やカーボンニュートラルにつながる工程集約商品を選定し、拡販しました。具体的には産業用ロボットや超硬切削工具、展示会展新商品に加え、防災用品や暑さ寒さ対策商品の拡販等を全社をあげて販売した結果、お取引先様各社に最新情報や商品を提供することができ、また、環境負荷低減に一定の効果があつたと考えています。

尚、次年度の取組内容については当年度と同様とします。

②営業拠点別主要指標

令和6年9月期の各営業拠点別主要指標を下記にまとめました。

※構成人員数1人あたり

金沢営業所には融雪装置の設備無し

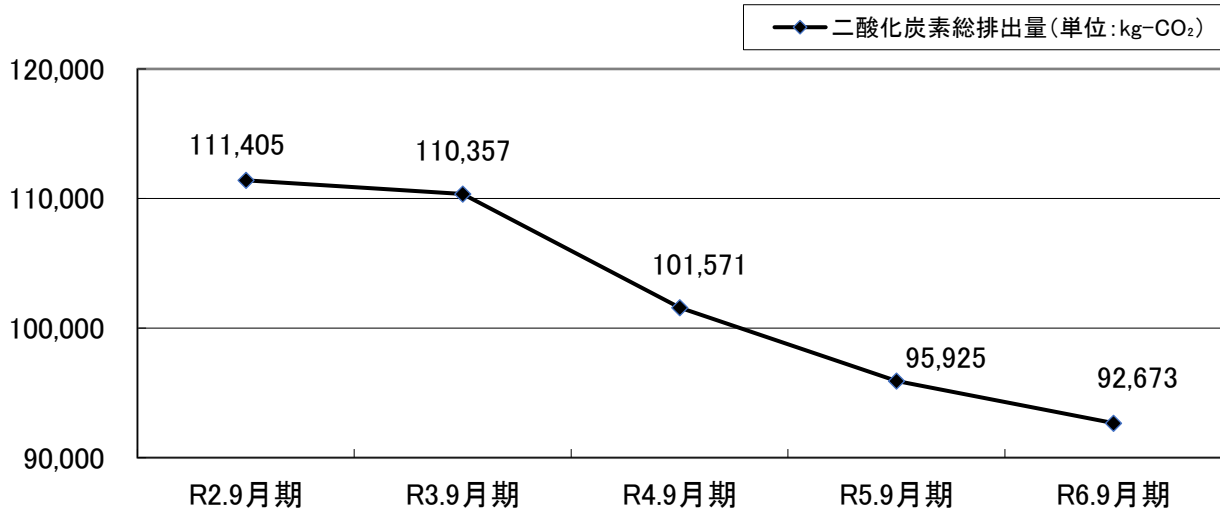
	年度	二酸化炭素排出量	廃棄物排出量	排水量
本社	R 3 年9月期	2,225kg-CO2	132kg	236m ³
	R 4 年9月期	2,069kg-CO2	165kg	259m ³
	R 5 年9月期	2,001kg-CO2	164kg	113m ³
	R 6 年9月期	1,902kg-CO2	161kg	83m ³
入善	R 3 年9月期	2,676kg-CO2	130kg	113m ³
	R 4 年9月期	2,721kg-CO2	364kg	129m ³
	R 5 年9月期	3,361kg-CO2	116kg	177m ³
	R 6 年9月期	2,730kg-CO2	109kg	52m ³
高岡	R 3 年9月期	3,657kg-CO2	163kg	137.8m ³
	R 4 年9月期	3,085kg-CO2	266kg	142.3m ³
	R 5 年9月期	2,787kg-CO2	149kg	89.2m ³
	R 6 年9月期	2,738kg-CO2	135kg	26.2m ³
金沢	R 3 年9月期	2,517kg-CO2	148kg	5.0m ³
	R 4 年9月期	2,248kg-CO2	125kg	3.9m ³
	R 5 年9月期	2,593kg-CO2	170kg	4.7m ³
	R 6 年9月期	2,334kg-CO2	113kg	3.9m ³

※売上高1百万円あたり

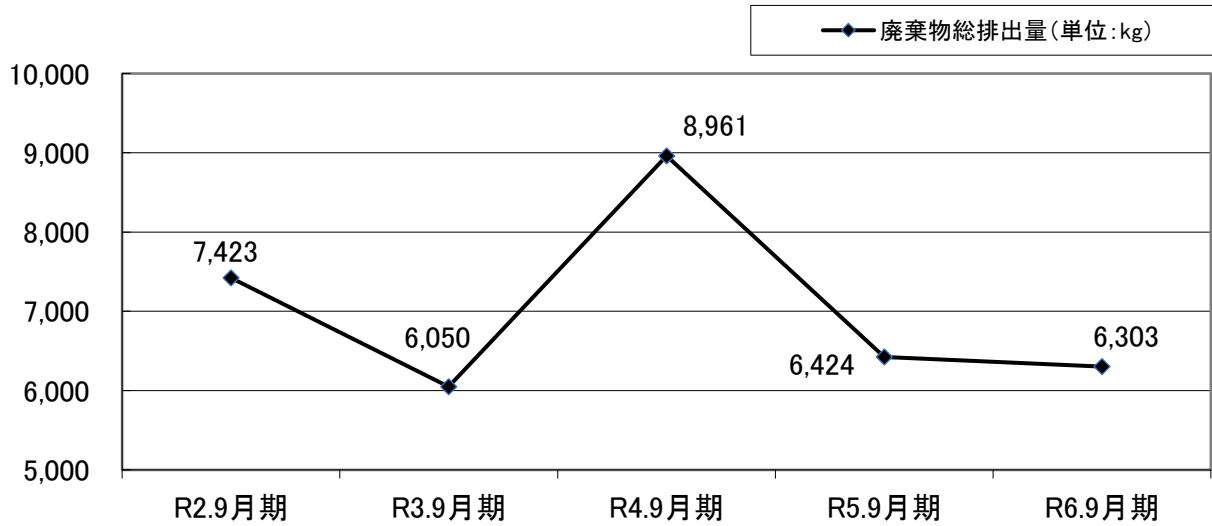
	年度	二酸化炭素排出量	廃棄物排出量	排水量
本社	R 3 年9月期	27kg-CO2	1.6kg	2.85m ³
	R 4 年9月期	19kg-CO2	1.5kg	2.37m ³
	R 5 年9月期	18kg-CO2	1.4kg	1.00m ³
	R 6 年9月期	23kg-CO2	2.0kg	1.02m ³
入善	R 3 年9月期	31kg-CO2	1.5kg	1.33m ³
	R 4 年9月期	32kg-CO2	4.3kg	1.52m ³
	R 5 年9月期	33kg-CO2	1.2kg	1.77m ³
	R 6 年9月期	19kg-CO2	0.8kg	0.37m ³
高岡	R 3 年9月期	33kg-CO2	1.5kg	1.25m ³
	R 4 年9月期	16kg-CO2	1.4kg	0.75m ³
	R 5 年9月期	23kg-CO2	1.2kg	0.73m ³
	R 6 年9月期	21kg-CO2	1.0kg	0.20m ³
金沢	R 3 年9月期	27kg-CO2	1.6kg	0.05m ³
	R 4 年9月期	37kg-CO2	2.1kg	0.06m ³
	R 5 年9月期	34kg-CO2	2.2kg	0.06m ³
	R 6 年9月期	27kg-CO2	1.3kg	0.05m ³

③環境保全活動の経過推移（全社過去5年のグラフ化）

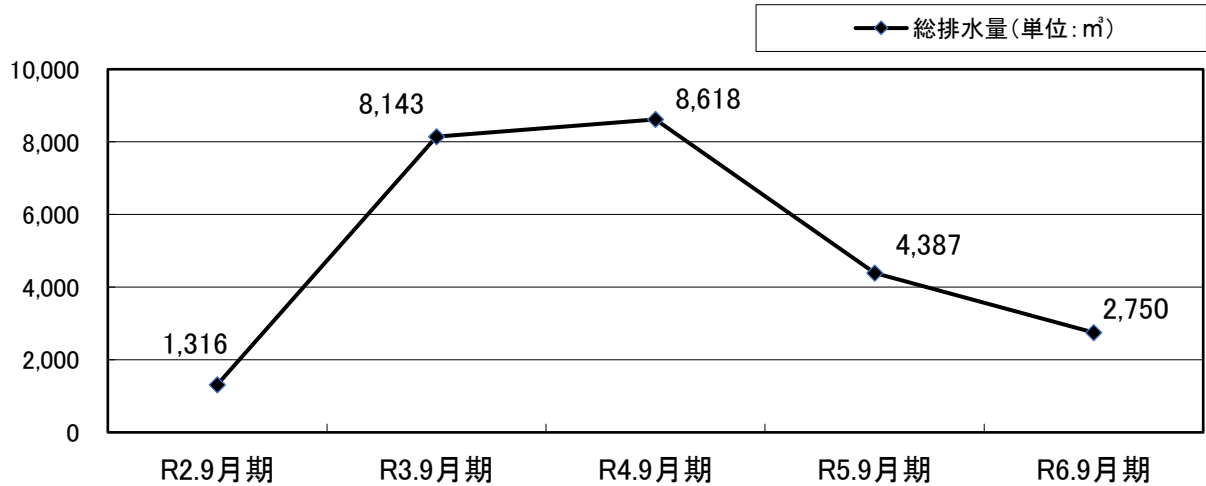
二酸化炭素総排出量推移



廃棄物総排出量



総排水量



5. 環境への負荷低減のための具体的取組と評価・次年度の取組内容

※次年度の取組内容については、当年度と同様とします。

項目	具体的取組	評価
使用電力量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ エアコン以外の電化製品のこまめな ON・OFF を心がける。 ・ 不要箇所の消灯（トイレ・商談ルーム・倉庫使用時以外の消灯） ・ エアコン使用時はブラインドを下げる ・ エアコン使用時、玄関ドアを閉める ・ エアコン・ヒーターの最低限の運用（設定：夏 28℃、冬 20℃設定） ・ 夏場、屋外の気温が低い時はエアコン OFF（夕方） ・ 照明のこまめな ON・OFF ・ 外出時、無人となる該当エリア消灯の厳守 ・ 昼休み、夜の不要箇所消灯 ・ 自動ドア・倉庫シャッターの最低限の運用 ・ エアコン、業務用ヒーター使用時での扇風機による空気の循環 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本社と高岡は消費電力量の大きいエアコン管理の徹底により、目標に対し本社 107.8%と高岡 102.7%と目標達成。 ・ 入善は目標比 3 月 30.6%、4 月 45.7%と大きく乖離し、通期でも 94.3%と未達。 ・ 金沢は夏と冬のエアコン使用月の運用管理が甘く、前期比より増加し、目標未達。
灯油使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社内暖房に使用。（但し、極力エアコンを優先し灯油使用量削減） ・ 朝はまず業務用ヒーターのみで事務所内室温を 20℃に上昇させた後は、エアコンのみの自動運転とする ・ 太陽熱を取り入れるため、晴天時はブラインドを下げない ・ 各個人の衣服による調整で暖房対策をする ・ 事務員のみの場合小型ストーブの局所使用（営業所の場合） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全拠点でのエアコンシフトによる必要最低限の使用により、全拠点で目標達成。全社計では、基準年の令和 3 年度比 75.5%と大きく削減。
LPG使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガスコンロ使用時は炎をヤカン外径より内側に設定し蓋をする。 ・ ヤカンの外回りの水滴を拭き取ってから火にかける。 ・ 使用後はガスの元栓を閉める。 ・ 給湯器の種火は、使用時以外は消す。 ・ 消し忘れがないか朝礼・昼食後にチェックする ・ 電気湯沸かし器の活用 ・ 夏場のお茶づくりのタイミング（回数・量）の調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年目標未達だった金沢で 190.9%と大幅に改善し、全拠点で目標を達成して、全社で 127.6%の達成率となる。今後も効率的な運用を維持・継続する。
ガソリン使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「エコドライブ 10 のススメ」の励行 ・ 当社の二酸化炭素排出量に対して、ガソリンが 75%を占めていることの認識の共有 ・ カーエアコンの適正使用 ・ ガソリン燃費表を記録し、前年同月と比較して燃費への意識向上に努める。 ・ 重量 20kg 以上の荷物は原則ユーザーへ直送する。 ・ 車内に不要な荷物（カタログなど）を載せたままにしない。 ・ 各自効率の良い営業ルート of 都度確認と実践 ・ ユーザー構内はなるべく歩いて回る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当社にとっては環境負荷に対するウエイトが最も高い項目のため、基本的な取組の再確認と徹底を継続する。 ・ 車両別の月次給油量を全社回覧とし、前年度比や他車両との違いを全員で認識する。 ・ 本社 96.8%、高岡 94.4%と未達。最適ルートでの運行とエアコンの適正利用を徹底。
紙類（廃棄物）	<ul style="list-style-type: none"> ・ FAX、プリンタ用紙等可能な限り裏紙を再利用 ・ メール活用によるペーパーレスの推進 ・ コピー・プリントアウトは内容確認の上判断 ・ 段ボールは極力客先での処理を心がけ、納品時にも活用する ・ カタログを取り寄せる時は社内ストックの有無と数量を確認の上最適数を取寄せし、速やかに全数を配布する ・ 過剰梱包をなくすよう、仕入先へ依頼する ・ 見積書作成時の入力ミスの削減 ・ 段ボール、新聞紙のリユースの拡大 ・ 古いカタログはメーカーや仕入先に返却する。 ・ 受領したカタログ・チラシは極力全数ユーザーへ配布するよう心掛ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本社は保有カタログの整理整頓（12 月、6 月、8 月）と段ボールの想定以上の廃棄（10 月）で、82.6%と大きく未達。 ・ 高岡は段ボールのリユース先での受入制限の影響で、92.8%と未達。 ・ 段ボールのリユースとカタログの適量確保とユーザーへの全数配布を再徹底する。 ・ 裏紙利用と安易なコピー、プリントアウトをしないことを意識する。

項目	具体的取組	評価
事業系一般廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> リサイクル可能なものが事業系一般廃棄物に混入していないか、分別間違いがないかを確認する。 除草の際には、草の土は落とし、極力乾燥させてから廃棄する。 できる限り外部よりゴミを持ち込まないように注意する 	<ul style="list-style-type: none"> 除草した草の土の除去不足と苔類の廃棄があり、本社だけが90.9%と未達。除草の注意事項を周知徹底する。
産業廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> 新品納入時、旧商品の引き取り要求が納入先からあればメーカーに引き取ってもらう。 やむを得ず発生した廃棄物は担当責任者に連絡し判断を仰ぐ。 修理品の引き受け時には、修理不能と判断された場合の現品の対応も考えて交渉する。 エアークッション類はエアを抜く。 リユース可能な緩衝材の混入の有無をチェック 	<ul style="list-style-type: none"> 金沢以外は目標未達だったが、本社と入善は前期実績値からは削減。 排出量削減のために必要な緩衝材のリユース先の開拓を継続する。
生活用水	<ul style="list-style-type: none"> 社内見廻時に給排水箇所の漏水、蛇口の閉め忘れの有無確認 無駄な水の使用には即口頭注意 清掃時等でのバケツ使用の徹底 融雪装置ノズルの清掃・点検（年1回） 水道メーターの定期的なチェックと使用状況の周知 週に一度使用量を確認し節水への意識を高める 手洗い、うがい時は水を流しっぱなしにしない 	<ul style="list-style-type: none"> 本社で4月、11月に目標値に対し各月+3 m³の影響で、通年で91.1%と目標未達となる。 入善は漏水対策と管理の徹底で130.1%と大きく目標達成
融雪装置	<ul style="list-style-type: none"> 融雪装置については従来通り最低限の運用を継続 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>冬期間中は天気予報を毎日チェック 降雪時、もしくは降雪が見込まれる時のみ稼働 電源は夜にオン、朝にオフ。センサー感度を過剰にしない 日中は地熱利用による自然融雪を心がける</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な取組を徹底継続し、最低限の使用とする。 融雪装置使用前でのノズルのチェック、清掃、調整を徹底する。

6. 緊急事態への準備、及び対応

「安否確認システム（スマホ版）」を全社員に導入し、3月30日（土）の全員参加の全体会議終了後に、受信と安否回答の集計に問題がないことを確認した。半年後の9月28日（土）の全体会議後に動作確認を実施し、操作手順を確認した。今後も全体会議終了後に実施することで計画する。

7. 環境関連法規への違反・訴訟等の有無

当社に適用される環境関連法規については、環境基本法、地球温暖化対策の推進に関する法律、大気汚染防止法、浄化槽法、土壌汚染対策法、廃棄物処理法、循環型社会形成推進基本法、資源有効利用促進法、容器包装リサイクル法、家電リサイクル法、グリーン購入法、自動車リサイクル法、消防法や各市町村火災予防条例、フロン排出抑制法について、遵守状況を検証・確認した結果、取組期間中、環境関連法等への違反・訴訟等はありませんでした。尚、過去5年間にも違反等はなく、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

当期は自動車メーカー各社の不正に伴う生産調整に加え、中国での不動産不況による経済の停滞の影響から当社売上高は約41億円と大幅な減収となった。EA21の活動状況は、マンネリ化が散見されるものの週単位や年度単位での意見交換会を実施し、日常活動の中での活動意識は全社員に浸透していた。その結果、当該年度のCO₂総排出量は前年比▲3.4%と更に低下し、令和元年度からも連続して低下傾向を示している。一方廃棄物総排出量では大きな低減は見られず、ITツールを活用し紙ベースでの管理を少なくするよう意識を高めていくことが必要である。総排水量は融雪装置の稼働状況に圧倒的な影響を受けるものの機器点検により予防保全に努めたい。また元旦に発生した能登大地震の教訓を生かし、事業継続を意識し環境活動を継続していきたい。

令和6年12月

山崎機工株式会社 代表取締役社長 山崎 均